

第115期 ビジネスレポート

2025年4月1日～2026年3月31日



daiwabo

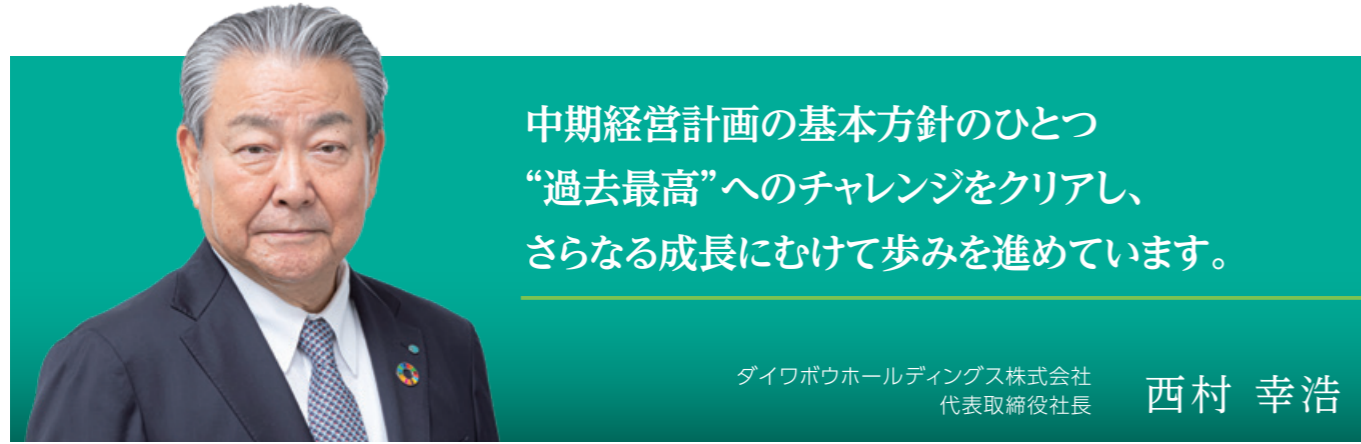
バリューチェーンで



人をつなぎ、社会をつなぎ、未来へつなぎ

ダイワボウホールディングス株式会社

証券コード 3107



業績について

第115期の概況をセグメント別にご報告いたします。
ITインフラ流通事業は、クライアントPCおよび文教向け需要が業績を大きく牽引しました。クライアントPCは、2025年10月のWindows10サポート終了を見据えた更新需要を多く獲得しました。サーバー製品は前年の大型案件獲得による反動減があったものの、PC、クラウド、ネットワーク、ソフトウェアを組み合わせた複合提案の強化により、全体として前年を上回る実績を達成しました。また、サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」で提供するクラウド製品を中心に、リカーリングビジネスの強化、新規テックベンダーの開拓およびオリジナルサービスの市場深耕に

注力し、業績を拡大しました。官公庁向けでは、地方公共団体向けの案件獲得により、前年同期比で売上が増加しました。文教向けでは、全国で展開してきた販売パートナーへのきめ細かな営業活動が奏功し、多くのGIGAスクール第2期共同調達案件を獲得したことで、大幅に増収しました。個人向け市場では、量販店およびECの両チャンネルにおいてPC販売が好調に推移し、前年同期比で増収を達成しました。
産業機械事業は、工作機械部門ではエネルギー、造船業界からの堅調な受注に加え、主力である航空機業界の需要回復により、前年同期比で受注が増加しました。また、金型業界向け大型機の売上もあり、売上高、営業利益ともに前年同期比で増加しました。自動機械部門では、大型案件の売上を計上したことで、売上高、営業利益ともに前年同期比

で増加しました。
以上の結果、当期の連結業績は、売上高1兆3千508億7千9百万円(前年同期比18.8%増)、営業利益は441億6千9百万円(前年同期比26.6%増)、経常利益は449億4千3百万円(前年同期比26.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は320億3千万円(前年同期比29.4%増)となり、これら全ての業績で過去最高を達成しました。また、ROEは19.9%、ROICは16.9%と、どちらも中期経営計画における目標数値を大きく上回りました。

株主様への還元については、期末配当を1株当たり50円から55円へ増配させていただきました。これにより、年間配当金は1株当たり105円となり、前期から15円の増配となっております。

今後の見通しと取り組み

第116期は、「事業ポートフォリオ変革による躍進期」と位置づけた中期経営計画の最終年度となります。今期の見通しをご報告いたします。

ITインフラ流通事業は、Windows10サポート終了の反動減が見込まれますが、AI PC市場およびGIGAスクール第2期の残存需要の取り込みを図ります。また成長分野であるクラウド領域でのシェア拡大を目指し、引き続き「iKAZUCHI(雷)」掲載サービスの営業活動を強化します。このほか、社会認知度向上のため、リブランディングに取り

組みます。
産業機械事業は、工作機械部門では米国・中国市場における在庫販売戦略の強化、有望なアジア地域市場の開拓を進め、売上拡大に取り組みます。自動機械部門では、ケーサーの販売強化、新機種開発の促進によって、市場競争力を向上します。

当社グループは、中長期ビジョン「2030 VISION」において、「IT分野を軸に新たな事業領域へ経営資源を投入し、バリューチェーンのさらなる発展につながるグループ体制を構築する」というエクイティストーリーを掲げました。その第一歩として、2025年11月にBCC株式会社との資本業務提携契約を締結しました。BCC株式会社は、IT人材育成・アウトソーシングに知見があり、本提携により、IT人材領域での新規事業の立ち上げ検証、M&A機会における相互協力、グループ各社のニーズに合わせた人材供給が可能となります。

現中期経営計画は、中長期ビジョンである「2030 VISION」の実現に向けた重要な挑戦期間です。グループ基本方針である「ホールディングス体制での成長」「過去最高”へのチャレンジ」「ステークホルダーエンゲージメントの向上」に一層邁進し、事業ポートフォリオ変革を追求する経営により、2030年までの成長スピードを段階的に加速させていくよう取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

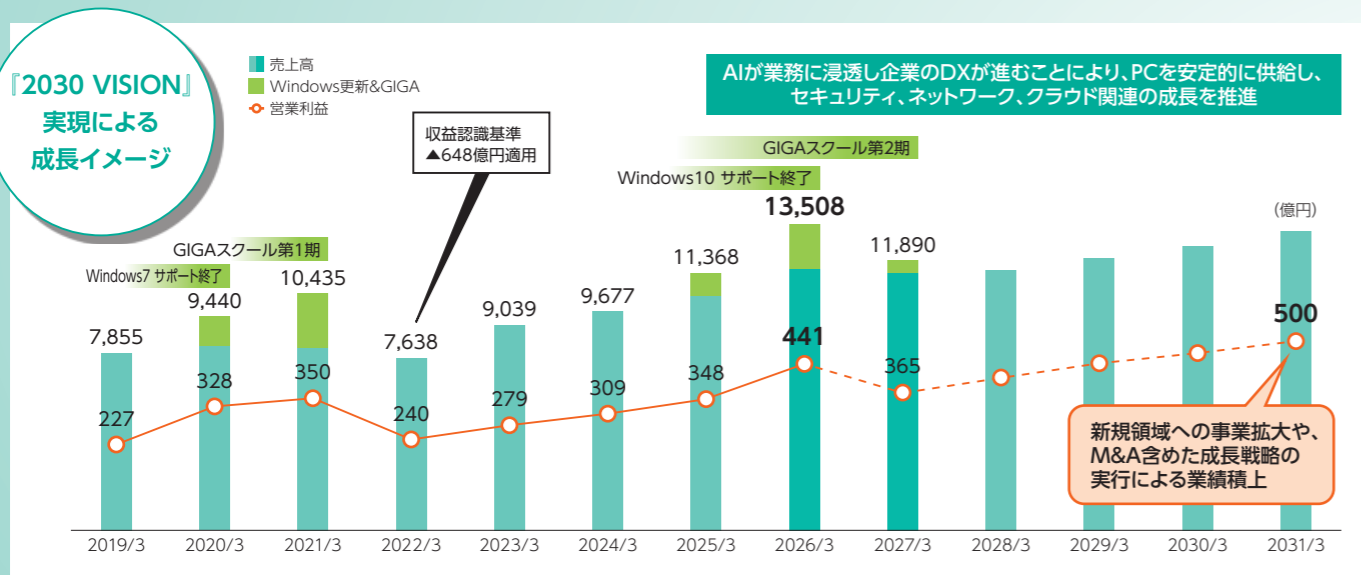
中長期ビジョン「2030 VISION」

エクイティストーリー

IT分野を軸に新たな事業領域へ経営資源を投入し、バリューチェーンのさらなる発展につながるグループ体制を構築する

「なくてはならない企業グループ」へ
社会に求められる事業モデルを創造する

All-in-One Solution Company
ディストリビューションを不動のコアにIT市場全体を“つなぐ”



中期経営計画の進捗

「2030 VISION」実現にむけた現在地

第1フェーズ (2022年3月期-2024年3月期) 将来にわたる発展を見据えた転換期

第2フェーズ (2025年3月期-2027年3月期) 事業ポートフォリオ変革による躍進期

第3フェーズ (2028年3月期-2030年3月期) 2030年以降の成長へと“つなげる”発展期

(億円)	2025/3期 (実績)	2026/3期 (実績)	2027/3期 (予想)
売上高	11,368	13,508	11,890
営業利益	348	441	365
営業利益率	3.1%	3.3%	3.1%

当期の業績を反映し3年目の業績予想をさらに引き上げ

- 今後も拡大する国内IT投資に貢献し堅調な成長を続ける
- 国内PC出荷台数に頭打ち感はあるものの、AI PCやクラウド関連など新しい技術による需要も捉え成長を後押し
- M&A実行も含め新規領域への進出を推し進める

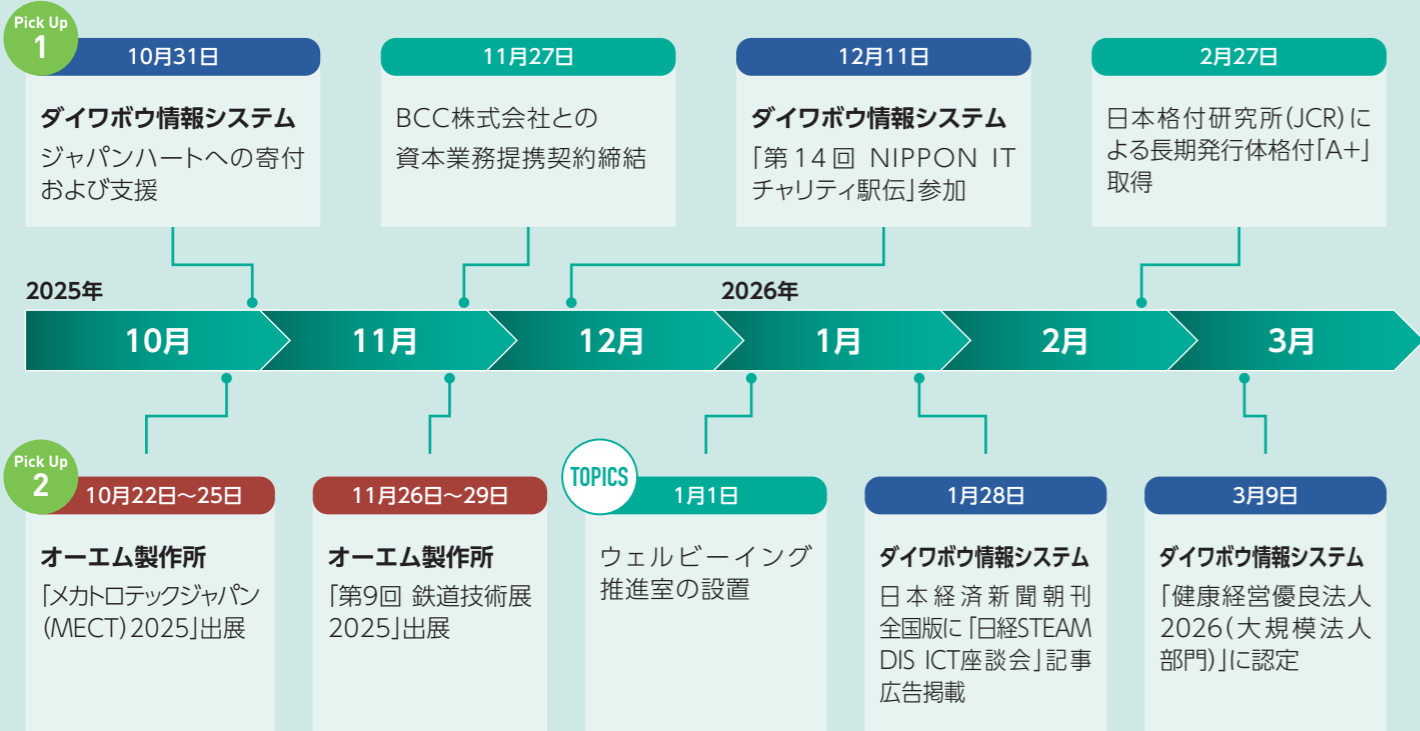
BCC株式会社との資本業務提携

当社は2025年11月、IT人材・ソリューション分野で高い成長を続けるBCC株式会社との資本業務提携契約を締結しました。本提携を通じて、当社グループのIT分野における事業基盤をさらに強固なものとし、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

【提携の目的と背景】
IT営業人材のアウトソーシング事業に強みを持つBCC株式会社と連携することで、IT人材・ソリューション分野での知見の相互共有等を深化させます。これにより、IT分野におけるバリューチェーンのさらなる強化、発展を目指すとともに、IT業界における人材不足等の社会課題の解決に貢献してまいります。

【主な取り組み内容】
知見の共有と価値創造
連携協議会での知見の相互共有を通じてIT業界の課題解決を図り、新たなビジネス価値を共創する
新規事業・投資の共同推進
BCC株式会社の知見を活かし、IT人材・ソリューション分野の投資検討や運営で相互協力する

写真左：BCC株式会社 代表取締役社長 CEO 伊藤 一彦氏
写真右：ダイワハウスホールディングス 代表取締役社長 西村 幸浩



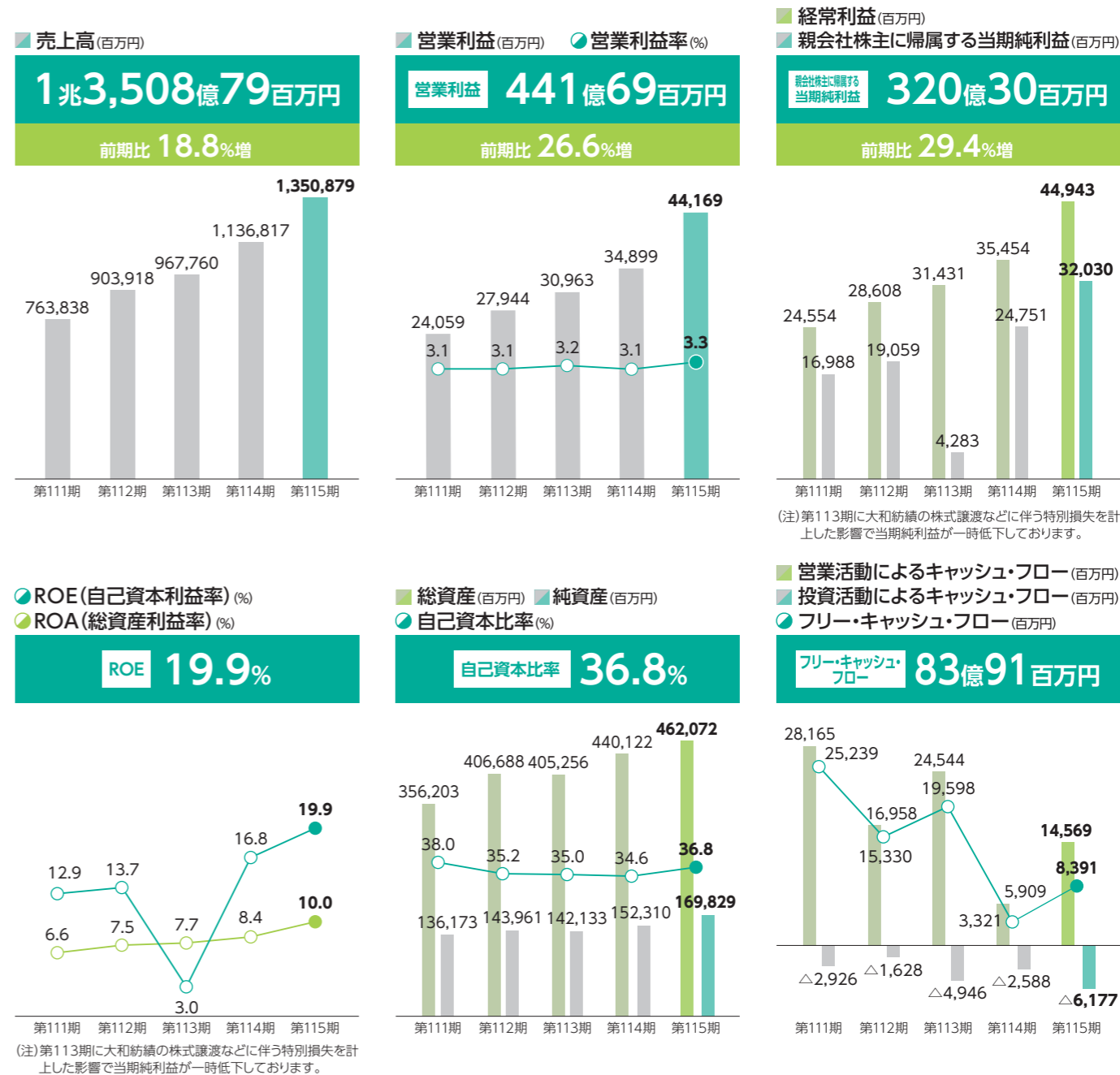
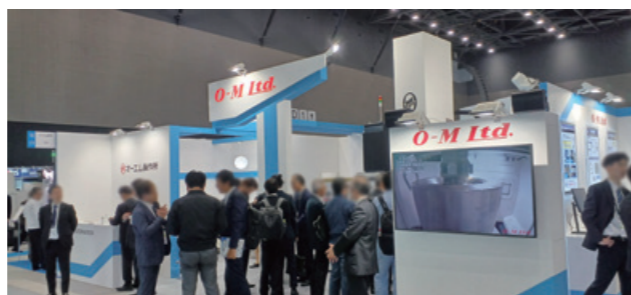
Pick Up 1 ジャパンハートへの寄付および支援

ダイワボウ情報システムは、2020年より継続して実施している社会貢献活動の一環として、「医療の届かないところに医療を届ける」理念を掲げる特定非営利活動法人ジャパンハートの活動を支援し、本年も1億円の寄付を行いました。本寄付を一助として、2025年10月31日にカンボジアで新病院が設立・開院され、医療資源が不足する地域における医療アクセスの向上に具体的な成果として結実しています。当社は、こうした社会的インパクトの創出を重要な経営課題と位置づけ、今後も継続的な取り組みを通じて企業価値の向上と持続可能な社会の実現を両立してまいります。

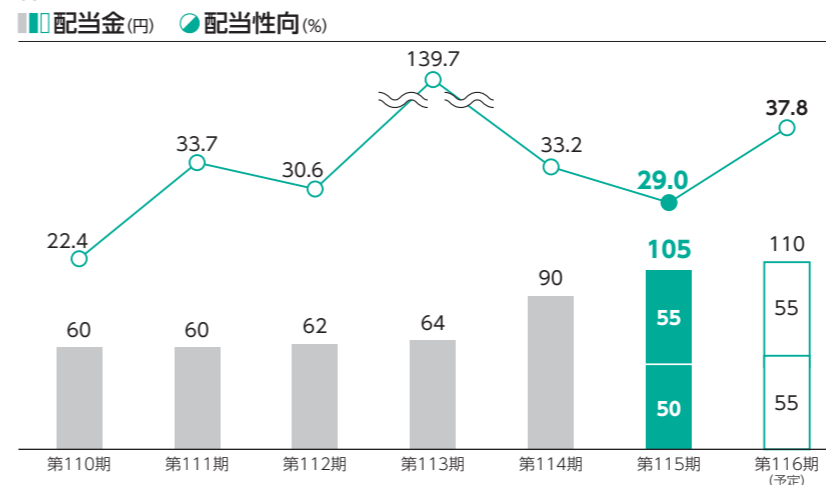


Pick Up 2 「メカトロテックジャパン (MECT) 2025」出展

2025年10月22日～25日、名古屋で開催された工作機械見本市「メカトロテックジャパン(MECT)2025」にオーエム製作所が出展しました。今回の展示テーマは「DX活用における省力化」で、RT-915M型ターニングセンタ実機と開発ブースに「シン対話機能」「AI版切粉検知システム」「切粉分断補助機能」を展示しました。特に実機での「AI版切粉検知システム」のデモンストレーションでは、来場者の皆さまに好評いただきました。また、最終日には日本工作機械工業会主催で、理系学生を招待して企業・人事担当者と学生をつなぐ交流会が催されました。オーエム製作所採用チームも会社説明会を実施し、会社のPRに注力しました。



株主還元



第116期の配当金は、1株当たり中間配当金55円、期末配当金55円の年間配当金110円、配当性向は37.8%を予定しております。

※1株当たり配当金は株式分割(2021年4月1日)を過年度に遡及して表示しております。

自己株式の取得実績

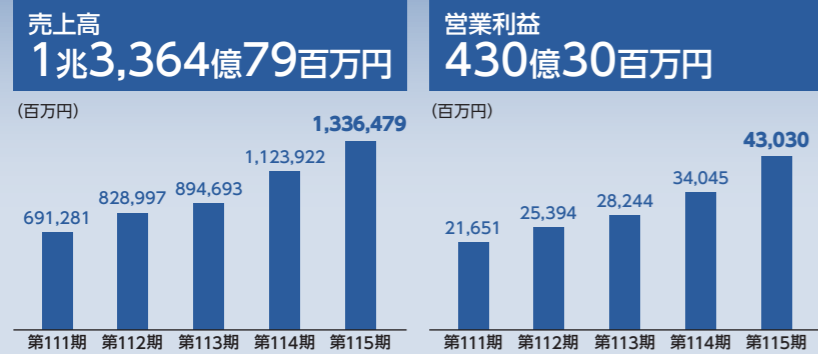
自己株式取得	約80億円 (2025年7月1日～ 2026年2月27日)
総還元性向	53.8%
PER(株価収益率)	8.5倍
PBR(株価純資産倍率)	1.57倍

※PER、PBRは2026年3月31日終値に基づいて算出しております。

ITインフラ流通事業

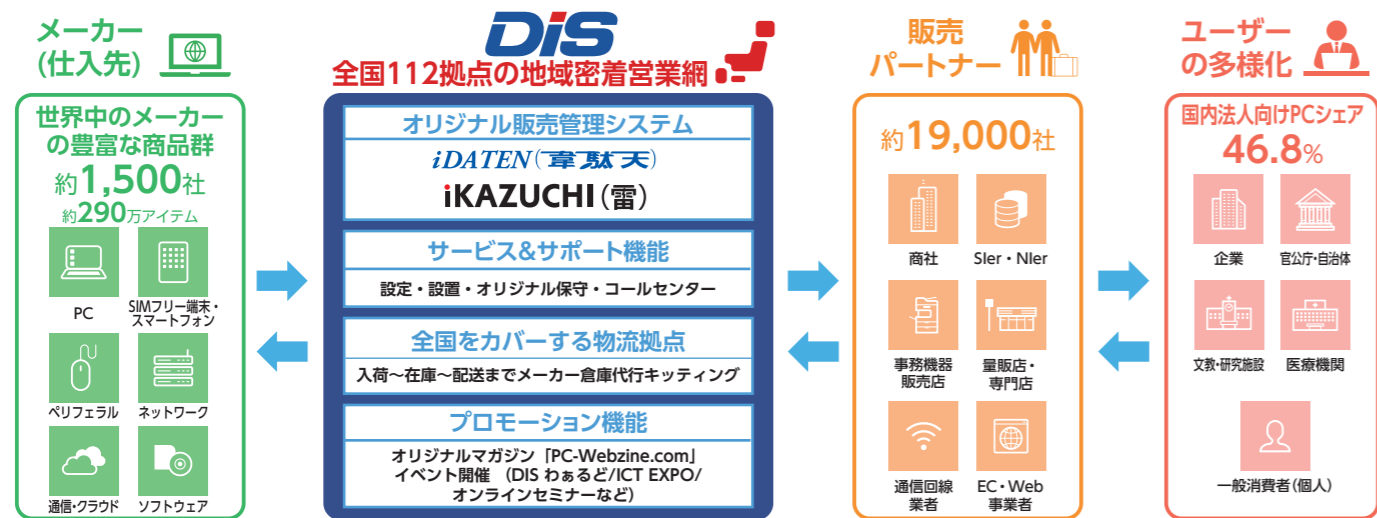
ディストリビューション	ダイワボウ情報システム (株)
サービス&ソリューション	ディーアイエスサービス&ソリューション (株)
ITインフラソリューション	アルファテック・ソリューションズ (株)

企業向けは、サービス、小売り、製造、医療業界を中心にWindows10サポート終了の更新需要を多く獲得し、業績を牽引しました。また、PC、クラウド、ネットワーク、ソフトウェアを組み合わせた複合提案の強化により、前年を上回る実績となりました。文教向けは地域密着の営業活動が奏功し、GIGAスクール第2期の共同調達案件を数多く獲得し、大幅な増収となりました。官公庁向け、個人向け市場においても売上が増加しました。



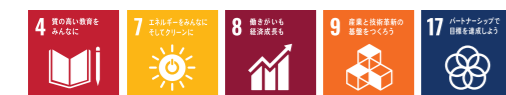
国内最大級のディストリビューターとしてIT環境をトータルにサポート

ITインフラ流通事業は、ダイワボウ情報システム (DIS) グループが運営する事業です。DISは独立系マルチベンダーとして、お客様のニーズに合わせて最適なソリューションを提案し、世界中のIT関連商品・サービスを最適な組み合わせでご提供いたします。どの地域のお客様にもFace to Faceできめ細やかに対応できるよう、日本国内をカバーする営業拠点と物流拠点を展開。全国の販売パートナーを通じて、民間企業や官公庁・自治体、学校、医療機関、一般消費者など、幅広く利用されるIT関連商品をお届けします。時代の変化に即応しながら、万全のサービス&サポートで、多様化・高度化するニーズに応え続けていきます。



事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 全国の営業拠点網によるIT化推進の取り組み
- 教育の情報化に向けた取り組み
- サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI (雷)」での新たなビジネス共創の場の提供



iKAZUCHI(雷)掲載サービス
147ベンダー/291サービス (2026年3月現在)

「iKAZUCHI (雷)」は、DISが提供するサブスクリプション管理ポータルです。サブスクリプション型 (継続課金型) ビジネスは、導入コストを抑えて、最新のサービスを必要な分だけ利用できるため、幅広い分野で普及・拡大が見込まれています。販売パートナーは「iKAZUCHI (雷)」を利用することで、クラウドサービスを中心としたサブスクリプションビジネスにおける注文工数が削減され、年額・月額・従量制などのさまざまな継続型契約や、ユーザー情報の一元管理が可能になります。

産業機械事業

工作機械	(株) オーエム製作所
自動機械	(株) オーエム機械
鑄造・加工・組立	オーエム金属工業 (株)

工作機械部門は、国内において好調なエネルギー、造船業界からの堅実な受注が継続したほか、主力である航空機業界の需要回復により受注が増加しました。金型業界向けの大型機の売上もあり、増収増益となりました。自動機械部門では、大型案件の売上計上により増収増益となりました。



あらゆる業界の製造機械に変革をもたらす「匠の精鋭技術集団」

航空・宇宙分野をはじめ、あらゆる産業のマザーマシンとして活躍し、長年にわたる技術・技能の伝承により厚い信頼を得ている「立旋盤」や、鉄道の安全と乗り心地を支える「車輪旋盤」などの工作機械と、食品や製菓などの幅広い業界で活躍する自動包装機を主に製造販売しています。時代を先取りし、独創性を持って、高い技術力が生み出す高精度な機械を提供することで、多様化するユーザーニーズに確実に応えていきます。

<p>立旋盤</p> <p>累計出荷台数 7,700台</p> <p>航空機エンジンや、ロケット、発電設備、建設機械など、さまざまな分野で主に大型部品の加工で活躍</p>	<p>車輪旋盤</p> <p>床下車輪旋盤 国内シェア 第1位</p> <p>鉄道車両のメンテナンスに欠かせない鉄道車輪旋盤は全国を走る新幹線・電車の安全と乗り心地の向上に寄与</p>	<p>自動包装機械</p> <p>国産カートナー(小箱詰機) 1号機産</p> <p>食品・医薬品などの箱詰めカートナーの他、個包装品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケースなど、幅広い分野に対応</p>	<p>事業を通じた社会課題解決への貢献機会</p> <p>■ 航空機エンジンやエネルギー分野向け、鉄道車輪メンテナンス用の工作機械などを通じてモノづくりの技術と品質を提供</p>
---	--	---	--

TOPICS ウェルビーイング推進室の設置

当社グループでは、創業以来「人」を最も重要な資本と捉え、従業員一人ひとりが「イキイキ働く会社」を目指し、『ウェルビーイング経営』に取り組んでいます。『ウェルビーイング経営』とは、従業員一人ひとりの働きがいや健康、生活の質を高めることを人事戦略の重要な柱とする考え方で、それにより従業員エンゲージメント(従業員のやる気と会社への信頼)の向上を目指しています。今回、これを全社的に推進する組織として、ダイワボウホールディングスに「ウェルビーイング推進室」を設置しました。従業員エンゲージメントを高めることで、労働生産性の向上と経営目標の達成に貢献してまいります。



メンタルヘルスセミナー実施の様子

会社概要

(2026年3月31日現在)

社名 ダイワボウホールディングス株式会社
 資本金 216億9,674万4,900円
 創立日 1941年(昭和16年)4月1日
 HD設立日 2009年(平成21年)7月1日
 本社 大阪市北区中之島3丁目2番4号
 中之島フェスティバルタワー・ウエスト
 連結従業員数 3,072名

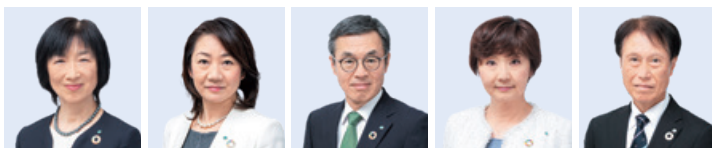
役員

(2026年6月26日現在)

取締役



代表取締役社長 西村 幸浩
 専務取締役 猪狩 司
 常務取締役 山下 隆生



社外取締役 吉丸 由紀子
 社外取締役 藤木 貴子
 社外取締役 堀 哲朗
 社外取締役 岸波 みさわ
 社外取締役 堂埜 茂

監査役



常勤監査役 小野 正也
 社外監査役 植田 益司
 社外監査役 角石 紗恵子

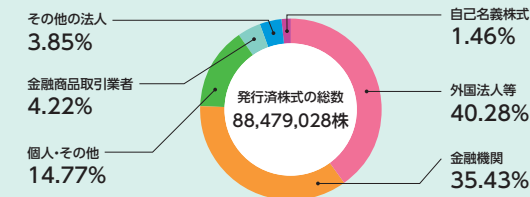
株式の状況

(2026年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
200,000,000株	88,479,028株	11,020名

(注) 発行済株式の総数のうち1,288,035株を自己株式として保有しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 ☎0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.daiwabo-holdings.com/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取扱いいたします。



統合報告書2025



グループ広報誌
DAIWABO HOLDINGS Digest



会社案内ビデオ



各詳細につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.daiwabo-holdings.com/>

IR・投資家情報

個人株主・投資家の皆様へ/中期経営計画/業績/財務/IRライブラリ/株式情報
 IRカレンダー/よくあるご質問/電子公告

サステナビリティ

トップメッセージ/マテリアリティ(重要課題)/「社会・産業」の創造と革新を支える「環境」との共生を支える/「人」を大事にする/ガバナンス/ISO取得状況
 ESGデータ/CSR調達ガイドライン/統合報告書/外部評価

事業紹介

ITインフラ流通事業/産業機械事業

会社情報

ご挨拶/グループ理念体系/会社概要/役員一覧/沿革/統合報告書
 グループ広報誌/広報・企業広告ライブラリ

株主アンケート

みなさまの  をお聞かせください

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

抽選でギフト券を進呈!



サービス運営会社：株式会社プロネクサス

お問い合わせ：コエキク事務局 koekiku@pronexus.co.jp